

中国禁輸、青森県業者を支援

ホタテシチュー「うまい」横手の小中生、給食味わう



横手市の小中学校で今月から、青森県・陸奥湾産ベビーホタテを使った給食が提供されている。25日は12校で児童・生徒がホタテ入りクリームシチューを頬張った。

中国の日本産水産物禁輸で在庫を抱える青森県の加工・養殖業者支援のため、むつ市が

買い取った陸奥湾産の冷凍ホタテを使用。同市が全国青年市長会仲間の横手市に、給食で消費してもらおうと442キロを無償提供した。横手市内12校のうち十文字小では、ホタテがなるべく均等に行き渡るよう給食当番が慎重に盛り付け。児童は真っ先にシチューに手を付け、ホタテの食感を楽しんだ。

藤原弘太君(6年)は「普段、給食にホタテは出ないので新鮮。ふっくらとした食感で、海のうまみを感じた。青森の人に感謝したい」と話した。

ホタテは18日に雄物川小など3校でお吸い物で、26日には増田小など5校でクラムチャウダーの具として提供された。2、3月の給食にも登場する予定。

(令和6年1月30日(火) 秋田魁新聞より一部抜粋)